

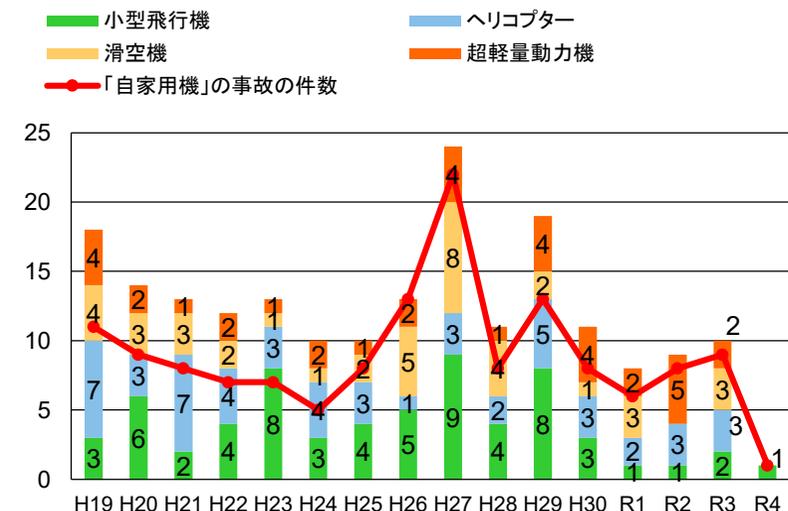
小型航空機等による航空事故等の発生状況

令和4年3月30日
国土交通省 航空局

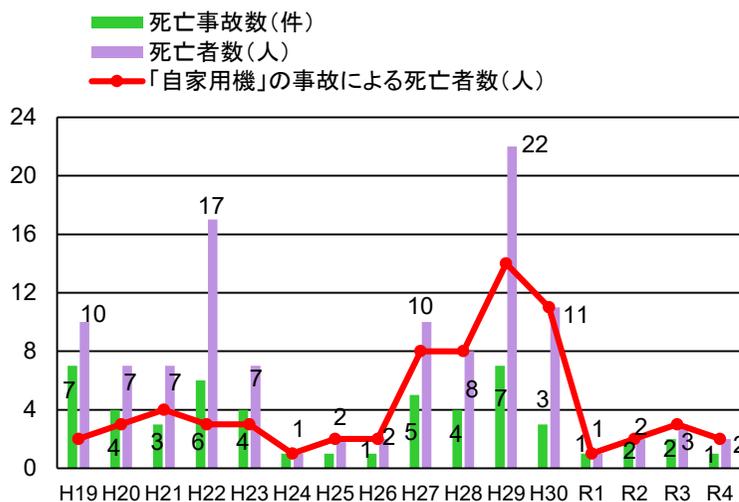
1 小型航空機等の航空事故等の発生状況

- 小型航空機による航空事故は、令和3年において10件発生（うち死亡事故は2件）。令和4年において1件の死亡事故が発生。（令和4年3月12日現在）
- 引き続き、更なる安全対策の推進が必要

○近年の小型航空機による航空事故件数



○近年の小型航空機による死亡事故等



個人に係る航空事故発生率の日米比較

	日本	米国
H28	9.80	5.93
H29	16.34	5.67
H30	3.34	5.87
R1	0.00	5.59
R2	8.05	5.57

※10万運航時間あたりの航空事故発生件数。統計方法が異なる可能性があるため、参考値。
 日本：令和3年度航空安全プログラム実施計画より
 米国：NTSB「2001-2020 Preliminary Aviation Statistics」より

令和3年以降の主な航空事故

令和3年4月14日、個人の飛行機が八尾空港を離陸直後に鳥と衝突し、機体を損傷（死傷者なし）

令和3年11月7日、個人の超軽量動力機が、山口県山口市内場外離着陸場を離陸したが、直後に墜落最多。（1名重傷）

令和3年3月23日、個人の回転翼飛行機が、長野県小県郡青木村の田んぼ付近に不時着した際、機体を損傷。（重傷者4名、軽傷者2名。）



（NBS長野放送（WEB）より）

令和3年11月3日、個人の滑空機が北海道石狩郡新篠津村内新篠津滑空場において、離陸のため曳航中、地面に落下した。（2名重傷）



（UHB 北海道文化放送(web)より）

(参考) 令和3年以降における小型航空機等による航空事故一覧

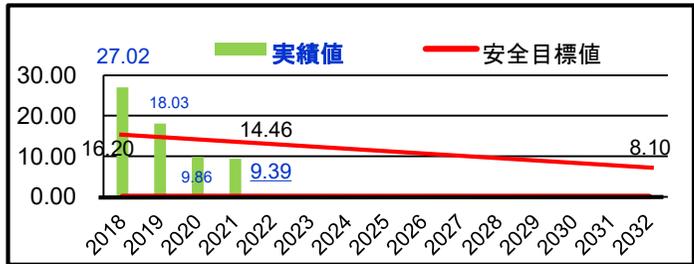
発生日	発生時刻	発生場所	運航者	機番	航空機型式	型式の分類	乗員数	概要	死傷者	機体の損壊等
2021年2月20日	10時00分頃	茨城県守谷市内の草地付近	個人	JR1734	ランズ式S-7クーリエ-R503L型	超軽量動力機	1	当該機は、2月20日10時00分頃茨城県守谷市内を飛行中、上記場所において脚を樹木に接触させ、墜落した。(調査報告書公表:2021年10月28日)		左翼の折損等
2021年3月23日	9時45分頃	長野県小県郡青木村の田んぼ付近	個人	JA6050	エアロスパシアル式AS350B型	回転翼航空機	6	当該機は、3月23日8時41分東京ヘリポートを離陸し、長野県小県郡青木村の田んぼ付近に不時着した際、機体を損傷した。(調査中)	4名重傷、2名軽傷	胴体の変形等
2021年4月14日	8時11分頃	八尾空港離陸直後	個人	JA001T	セスナ式525A型	小型航空機	7	当該機は、4月14日8時10分八尾空港を離陸したが、直後に鳥と衝突したため引き返し、8時26分同空港に着陸した。(調査中)		左側水平尾翼前縁部の変形
2021年8月1日	11時33分頃	仙台空港A滑走路上	個人	JA4077	パイパー式PA-46-350P型	小型航空機	2	当該機は、8月1日11時33分頃仙台空港A滑走路に着陸した際、前脚が格納され、胴体前方下部が滑走路に接触し、滑走路上で停止した。(調査中)		機体フレームの変形等
2021年9月20日	13時18分頃	長野県木曾郡大桑村殿付近	アカギヘリコプター	JA6200	カマン式K-1200型	回転翼航空機	1	当該機は、9月20日13時01分長野県木曾郡大桑村内場外離着陸場を離陸し、木材搬送作業中、長野県木曾郡大桑村殿付近の山中に墜落した。(調査中)		風防、テールブーム等の損傷
2021年10月7日	6時45分頃	神奈川県秦野市内の草地	個人	JA7975	ロビンソン式R22Beta型	回転翼航空機	1	当該機は、10月7日6時34分神奈川県足柄上郡大井町内場外離着陸場を離陸し、飛行中、神奈川県秦野市内の草地に墜落した。(調査中)	1名死亡	機体大破
2021年10月10日	12時48分頃	熊本県阿蘇市内の草地	北九州グライダークラブ	JA2189	アレキサンダー・シュライハー式ASK13型	滑空機	1	当該機は、10月10日12時48分頃熊本県阿蘇市内場外離着陸場に着陸した際、離着陸地帯を逸脱したため、低木に接触し、機体が損傷した。(調査中)		胴体尾部のひずみ、左主翼の損傷
2021年10月12日	9時41分頃	美瑛滑空場の北西約500メートル	個人	JA11AM	シェンプ・ヒルト式ARCUS-M型	動力滑空機	2	当該機は、10月12日9時40分頃美瑛滑空場を離陸直後、エンジンが停止したため、美瑛滑空場の北西約500メートル付近に墜落した。(調査中)	2名死亡	機体大破
2021年11月3日	12時07分頃	北海道石狩郡新篠津村内新篠津滑空場	個人	JA100K	アレキサンダー・シュライハー式ASK13型	滑空機	2	当該機は、11月3日12時07分ごろ北海道石狩郡新篠津村内新篠津滑空場において、離陸のため曳航中、地面に落下した。(調査中)	2名重傷	左翼後縁の損傷等
2021年11月7日	13時05分頃	山口県山口市内場外離着陸場	個人	JR1347	クイックシルパー式MXIIスプリントTop-R582L型	超軽量動力機	1	当該機は、11月7日13時05分頃山口県山口市内場外離着陸場を離陸したが、直後に落下した。(調査中)	1名重傷	フレームの変形等
2022年3月12日	12時45分頃	伊江島空港敷地内	個人	JA4577	ビーチクラフト式A36型	小型航空機	2	当該機は、伊江島空港において連続離着陸訓練を実施中、伊江島空港敷地内に墜落した。(調査中)	2名死亡	詳細確認中

○ 令和3年度の航空事故発生率に関しては、「事業者(定期便を含まない)」及び「国、地方公共団体」において
は時間及び回数あたりの両方で、「個人」においては回数あたりで目標達成

航空事故発生率に関する安全目標値と実績値(2018～2032)

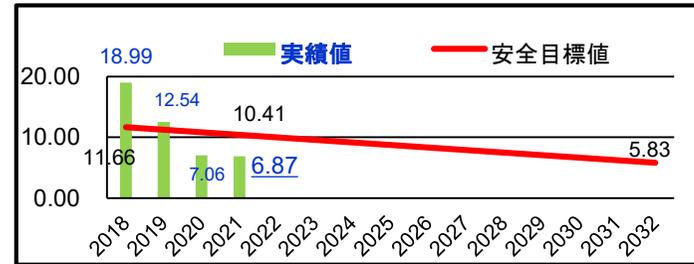
【目標値設定の考え方】
 ○ 2018(H30)年度の目標値から15年間(2032年度)で50%改善
 ○ 各年度の目標値は2018年度の目標値と2032年度の目標値を結ぶ直線と当該年度の交点

100万飛行時間あたり航空事故発生率

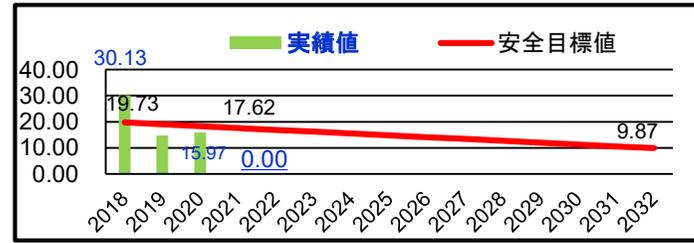
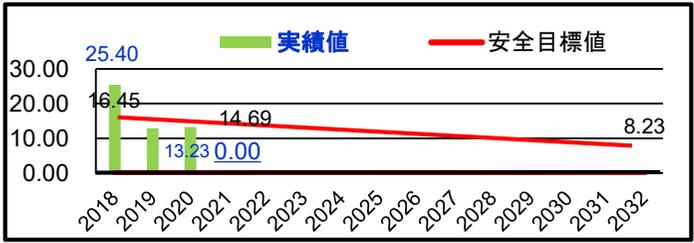


航空運送事業者及び
航空機使用事業者
(定期便を含まない)

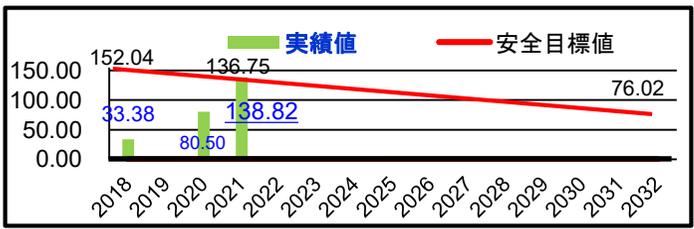
100万飛行回数あたり航空事故発生率



国、地方公共団体



個人
※滑空機・超軽量動力機を除く



○令和3年10月7日～10月12日にかけて、3件(うち2件は死亡事故)の航空事故が連続して発生。
3件の概要は次のとおり。

1. 発生日時:10月7日(木)6時45分ごろ

場所:神奈川県秦野市内の草地

概要:個人のロビンソン式R22Beta型JA7975が、6時34分神奈川県足柄上郡大井町内場外離着陸場を離陸し飛行中、墜落。搭乗者1名が死亡。

運輸安全委員会による原因調査中。

2. 発生日時:10月10日(日)12時48分ごろ

場所:熊本県阿蘇市内の草地

概要:北九州グライダークラブ所属のアレキサンダー・シュライハー式ASK13型滑空機JA2189が阿蘇市内場外離着陸場に着陸した際、

離着陸地帯を逸脱したため低木に接触し、機体を損傷。

運輸安全委員会による原因調査中。

3. 発生日時:10月12日(火)9時41分ごろ

場所:北海道美瑛滑空場の北西約500メートル

概要:個人のシェンプ・ヒルト式ARCUS-M型動力滑空機JA11AMが、美瑛滑空場を離陸直後エンジンが停止したため、墜落。搭乗者2名が死亡。

運輸安全委員会による原因調査中。



(読売新聞オンラインより)



(UHB 北海道文化放送(web)より)

国土交通省航空局による対応

関係機関及び関係団体等への注意喚起文書の発出

10月7日～12日までの短期間に連続して航空事故が連続して発生したこと及び死亡事故も2件発生したことから、以下について注意喚起文書を発出

小型航空機の安全確保について（令和3年10月12日付け事務連絡）

- 出発前確認や基本操作手順の確実な実施
 - 3H(初めて、変更、久しぶり)への留意等
 - 基本事項の徹底について周知を図る など、安全運航の確保に万全を期するよう注意喚起を実施
- また、航空局ホームページに掲載しているリーフレットや安全啓発動画についても活用するよう、情報発信

3H(初めて、変更、久しぶり)とは... (Wikipediaより)

人間が作業を行う際、ミスや失敗を起こしやすい状況を簡潔にまとめた標語。以下の作業または状況のことを指す。

初めて(はじめて、Hajimete) - 初めてやる作業

変更(へんこう、Henkou) - 手順や方法が変更された作業

久しぶり(ひさしぶり、Hisashiburi) - 久しぶりに行う作業

これらの作業においては、普段に比べ特にミスや失敗が発生しやすく、そこから事故や怪我といった災害につながることも多い。

そのため3Hにあたる作業を行う際は、十分注意する必要がある。

SNS等を用いた情報発信

関係機関及び関係団体宛て注意喚起文書の発出の他に、迅速な情報発信として、Twitter及びメールマガジンにおいても、小型航空機の安全運航の確保について注意喚起の情報発信を実施

小型航空機の安全運航の確保について(注意喚起) (Twitter、令和3年10月12日発信)

小型航空機の安全運航の確保について(注意喚起) (メルマガ第51号、令和3年10月13日発信)

安全運航セミナー

令和3年12月に、6回に分けて実施した安全運航セミナーにおいても、注意喚起文書を別添資料として配付し、注意喚起を実施

事案の概要及び推定原因(令和3年10月14日兵庫県発表資料)

発生日時: 令和3年10月14日 17時08分頃

場所: 大阪府大阪市西成区付近

概要: 大阪府内の山岳救助の帰投途上において、機体キャビン内で救助隊員が使用中のスマートフォンが、換気のため開放していた窓からの風にあおられ機外に落下した。落下時の飛行高度は地上から約300m、時速約180kmで飛行していた。



国土交通省航空局による対応

本事案に伴う人的被害、物的被害は確認されていなかったが、航空局では事態を重く受け止め、関係機関及び関係団体あて注意喚起文書を発出

航空機からの機内持込み品の落下防止について (令和3年10月15日付け事務連絡)

- 機内持込み品や航空機部品等の落下が及ぼす危険性の周知徹底
- 落下物防止対策等の確実な実施の徹底
- 安全講習会を含めたあらゆる機会を通じて継続的に注意喚起すること